

環境保全のボランティア体験講座 2024 第4回講座レポート

第4回目の講座は8月4日(日)に大阪府貝塚市と岸和田市にまたがる和泉葛城山ブナ林での開催です。この日の受講生は13名。環境事業協会本社のビルの1階で集合して2つに班分けする確認をした後、バスに乗り込みました。



約2時間、少し早めに和泉葛城山山頂の駐車場に着くと、今回の講座でお世話になります和泉葛城山ブナ愛樹クラブの方々にもちょうど出迎えて頂けました。



代表の土井雄一さんです。まずは和泉葛城山ブナ林の概略をご説明頂きました。



A班は早速、駐車場横に人為的に植えられたブナを使っての観察会が始まりました。



駐車場すぐ横の和泉葛城山の山頂には大阪府側に高竈(たかおがみ)神社(葛城神社)と和歌山県側の龍王神社が隣接して立地しています。左の写真はその山頂に向かう様子です。

下の左・中の写真はミズメという木の説明をしているところです。枝を折って匂いを嗅ぐと、サロンプスのような独特の香り(成分:サロメチール)がします。

下の右の写真は、和泉葛城山ブナ林が天然記念物指定されて100周年記念の時にブナ愛樹クラブが植栽したブナを説明している様子です。



設置看板などを使ったりしながら、神社の歴史のお話がありました。

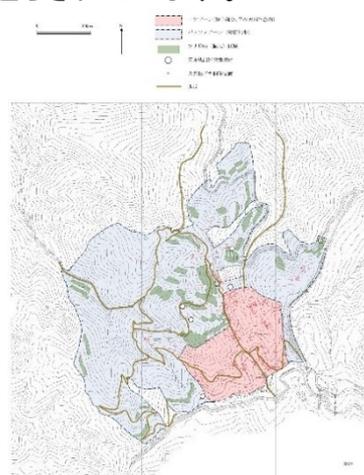
受講生は静かに聞き入っていました。この土地は五箇荘とって、5つの地区が土地の所有者となっており、協働で地域を守ってきました。



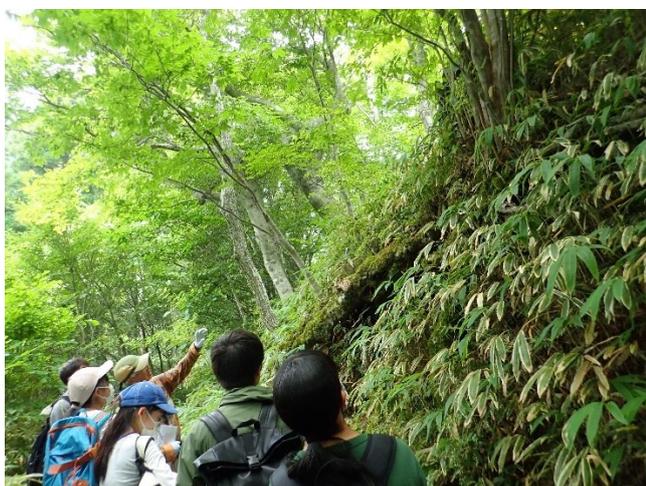
山頂付近に自生するこの山の象徴とも言えるブナ林。その全てのブナの木の根元には、番号が振られた赤/白の標識が刺さっています。また、和泉葛城山にはブナとよく似たイヌブナが混在して自生しており、下の写真はそれを説明しているところです。



さて、次のポイントに移動です。長い階段を下り、塔原道の観察デッキを目指します。周辺地区一帯はコアゾーンと呼ばれる天然記念物の保護区域(下の地図の赤色の部分)となっています。天然記念物のエリアは、樹林内に立ち入りできないように木柵が張り巡らされています。



下の写真は木部が見えづらくなっていますが、数年前に伐採された樹齢 300 年を超えるブナの説明をしている様子。毎年分解が進んでおり、根っこの部分はグラグラしていました。



こちらが塔原道の観察デッキとなります。

このデッキは部分的な補修跡の影響で昨年は明確な縞模様(下の中写真)になっていました。大きなブナの大木とその下に落下している種子の説明をしている様子です。

下の右の写真のように実生は矢印の先に穴が開いており、虫によって食べられたことがわかります。



ブナの大木の付け根付近に動物の巣穴も見つけました。ただ、これが何の巣であるかは判断つきませんでした。



通称ブナ街道を進む様子。

山の傾斜角度が急であるのが分かる写真ですね。

右下の写真のようにブナの巨木がどんどん枯れており、その割には稚樹が育っていないという現実があります。





左の写真はブナに生えるサルノコシカケ(キノコ)。

下の写真は木柵内に生えるブナの稚樹を観察する受講生たち。まだ全然大きくないし、毎年大きさが変わらないのですが、ここまで成長するにも数年かかっていたりします。



下の写真は、昼休憩の場所に向かうために車道に出た時にケンポナシという樹木の紹介をしている様子。抽出物はチューイングガムなどに利用されるそうです。



このあと、昼休憩をすべく、はじめにバスを降りた時の集合地の方へとA班は戻っていきました。

さて、ここからの写真は和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員で説明員の田中正視さんと、ブナ林の散策へと出かけはじめたB班の様子です。



コースは A 班と同じ、少しの時間差でポイントを回ります。



午前中の活動が終わり、東屋の下でお昼休憩に入ります。



下の写真は、午後からの講座の気象観測器の説明のため、移動中の受講生たち。土井さんにより、途中にある植物のお話が続きます。



弊社職員の岡本は、この気象観測器を管理している大阪みどりのトラスト協会の元職員であり、当時このブナ林の担当者であったことから、この気象観測機器がなぜ取り付けられているのか、どういったデータを計測しているのかなどをお話させて頂きました。
因みにこの場所では、風速・風向・雨量・気温・日照時間を計測しています。現在の情報だけで評価をするのではなく、データを蓄積させていく事で傾向を読み取るといった長期的な視点での狙いがあります。



午後からのメインとなるのは、ここから始まる木の間伐体験です。
資料を用いて人工林の管理のされ方や、安全面での配慮を講義頂きました。
まず土井代表の「森のサイクル」のお話の後、中心となって動いてくださったのは、左下の写真中央の中室さんで、左手に持っているのは木の切り込みのいれ方を教える為の模型です。



下の写真は使用が初めてな方も居るようですが、ノコギリを装着している様子です。ベルトが無い人は腰に紐で縛りつけます。このあと2つの班に分かれて体験が始まりました。



講座の進行がしやすいように、ブナ愛樹クラブの皆さんにより事前に切り倒す木にロープをかけておいて頂けたようです。このロープは倒したい方向に木を引っ張り安全に倒す為のものです。事前準備ありがとうございます！

そして木の伐倒に詳しいブナ愛樹クラブの担当者が、初心者である受講生に丁寧に教えて下さりました。A班のご担当は下の左の写真の右のベストを装着されている方、藤原さんです。



重力の方向に対し、平行にノコギリを入れていくのがポイントですが、これがなかなか難しいようです。



受け口と呼ばれる部分の切断が完了し、木片の匂いを嗅いでいる様子です。ヒノキのいい匂いがしています。有効成分ヒノキオチールには抗菌作用や防ダニ効果があり、香りもいいことからヒノキは様々な製品に使われています。



下の左は木にかけたロープを使って木を倒すところ、下の右の写真は木が倒れる瞬間です！安全管理を確実に、無事伐倒に成功しました。何百kgもあるので、安全管理を怠ると日本全国では年間何人も死者が出ているそうです。



枝払いをしている様子です。



伐倒後の切り株の断面図と、それを見て学習している受講生。
倒れた時の跳ね上がりを防ぐため、あえて中心部は切断しないよう切り進めていました。



一方、B 班の方では、ブナ愛樹クラブ中室さん(下の写真右端の方)を中心としたご指導により、同様に作業が進んでいました。





下の左の写真は、引き倒した様子。右の写真は、斜面で引っかかっている状態のものを切断しやすいようにロープで少しずらしている様子です。



左の写真は枝打ちの様子。

そして伐倒した木は、枝払い以降はほぼそのままに（後程ブナ愛樹クラブの方々に処理頂けるようです）、次のアクティビティ、丸太切りのために木の伐倒の説明を受けた広場に皆集まりました。下の写真のように、ここに設置してある台座（馬）も、ブナ愛樹クラブの皆さんが設置、切断用の丸太も事前にご準備頂きました。説明を聞いて、早速丸太切りの開始です。



ご覧のように一人が切っている間は他の人は馬を押さえるのに徹します☆



切断したヒノキの板を片手に満面の笑み(加工して見えませんが)の受講生☆



女性職員スタッフも頑張ってます！



「ほら、こうやって皮を剥ぐんだよ」と切断したヒノキの皮を剥いで、ツルツルの面を出すやり方を教わって実践する受講生。



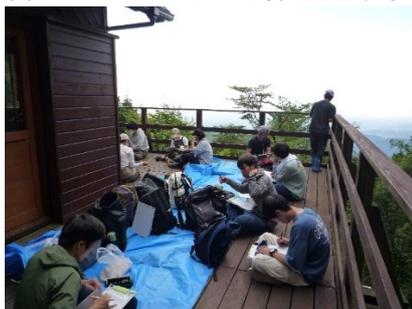


道具は使い終わったら手入れを必ず行います。水分を取って油をさす作業をすることで錆びさせず、道具を長持ちさせることができます。

ここで皆さんには内緒にしていたプレゼントの配布です。本日は作成者の方のご出席が叶いませんでしたが、この日の為にヒノキの工芸品のプレゼントをご準備頂けました。昨年度の大自然とお友達体験講座で伐倒されたヒノキを使った、「エッグ型トレー」になります。自身でペーパー掛けをして完成となりますが、以下はその様子です。



最後に受講生にアンケートを書いてもらっている様子です。



テラスの先には、右の写真のような光景が広がっています。標高800mを超える位置なので、非常に景色が良いです。この日は少しかすんでいましたが関西国際空港が一望できます。



恒例の「ふり返り」です。数名に発表頂いて、皆さんの気持ちの共有とおさらいを行いました。



参加者全員での集合写真です。このあと、お世話になったブナ愛樹クラブの皆さんにお礼を言ってバスに乗り込みました。



約 2 時間後、無事にバス降車場に到着した皆さんは、この後解散しました。



アンケートでは、受講生から参加満足度などの高い評価をたくさん頂きました。記述内容例としては以下のようなものがありました。

・ブナ林について今まで全然知らなかったのでブナ林を直接見て植生について知れて良かった。ブナは実を何年かに1回ぐらいしか多く実をつけないと聞いたので、今年たまたま多く実をつけた様子を見れておもしろかった。ヒノキを切る体験ではノコギリを使った経験がなく、プロを見てさすが違うなと思った。私は難しかったが、まっすぐ引くというのを聞いて頑張れたので良かった。とても貴重な体験が出来て楽しかった。受け口と追い口があり、木はどの方向に倒れるのか、倒れる方向をロープで調整することが分かった。木を切るには命に関わるので慣れたからといって気をつけなければいけないと分かった。そうして大変だけどヒノキをブナに戻してブナ林の植生を守り恩恵を享受出来るので、今日学んだことを広めたり活かしていきたい。

・照葉樹林とはまた異なる森林がどのように保全されているか知ることができた。ブナ林は温暖化や人為的はたらきかけの減少を受けやすい森林なので、保全の重要性を再認識した。

・50、60年クラスの植樹一本を切るだけでも、技術・体力・経験が要り、とても大変なことがよくわかった体験でした。現状ボランティアの方が3人一組程で一日3本ほど切られて保全をしてくれている現状をもっと考えていかなければならないと思った。コアゾーン、バッファゾーンと区分けして包括的な管理をしていること、ブナの木周りの生態系も違っているという話が興味深く、大阪で貴重な落葉高葉樹林帯(ブナをはじめ他の植樹)を守る大切さを感じた。

・ブナやナラなど、普段の生活ではまずお目にかかれない植物を多く見ることができ貴重な経験になりました。また、ブナの種の成長の難しさや、カシノナガキクイムシ(カシナガ)やブナヒメシンクイによるナラ枯れ、種の食い荒らしが起こることから、その保全の難しさを感じました。

以上のような回答が多数寄せられ、普段経験できない自然環境の保全にかかる苦労について、身をもって体験でき、環境についていつも以上に深く考えることのできた講座となりました。地球温暖化の影響で標高 800m を越えるこの和泉葛城山でも、積雪の機会が非常に少なくなってきており、積もっても数日ですぐに解けてしまいます。ブナ林やそこに棲む生きものたちの今後に非常に大きく影響しているため、人類一人ひとりの意識が今、非常に重要になっています。